

# 千葉県総合難病相談支援センターにおける 難病患者の就労支援と今後の展望

- 横内 宣敬（千葉大学医学部附属病院 ソーシャルワーカー）
- 江島 咲紀（千葉大学医学部附属病院 両立支援コーディネーター）
- 除村 由紀子（千葉大学医学部附属病院 社会保険労務士）
- 馬場 由美子（千葉大学医学部附属病院 看護師）
- 市原 章子（千葉大学医学部附属病院 ソーシャルワーカー）
- 石井 雅也（千葉公共職業安定所 発達障害者雇用トータルサポーター）

# はじめに

---

難病医療の進歩 → 疾患の多くは慢性化



就労に必要な配慮がえられれば...

治療と就労を両立することが可能

# はじめに

難病患者が抱える就労上の問題

= 課題は多岐にわたり**複合的**

**就労支援**が必要

多職種

+

多機関

連携

# はじめに

---

医療機関

就労支援機関



- 専門性の違い
- 組織の枠組みの違い



## 円滑な連携が課題

効果的な就労支援のためには・・・



- 適切な役割分担
- 有機的な連携

# はじめに

---

## 千葉県総合難病相談支援センター

⇒ 医療機関受託型（大学病院に設置）

### <取り組みの経過>

2014年 就労支援の取り組み開始

2017年 社会保険労務士による直接支援開始

# はじめに

---

## <目的>

当センターのこれまでの  
就労支援を取り組みと相談実績を振り返り



医療機関に設置されている当センターが担うべき  
役割と今後の展望について考察

# 方法

対象	千葉県総合難病相談支援センターに所属する社労士が対応した就労相談
期間	2017年9月から直近の2023年6月
集計方法	単純集計及びクロス集計
データ元	相談記録帳票・電子カルテ

## 方法(集計項目)

年齢	「20歳未満」、「20～40歳」、「40～60歳」、「60歳以上」、「不明」の5カテゴリーで分類
性別	「男性」・「女性」
疾患	「難病」、「がん」、「精神」、「その他」のうち該当するカテゴリーにすべてに分類
相談内容	「両立」「復職」「休職」「退職」「新規」「その他」のうち該当するカテゴリーにすべてに分類



# 方法（相談内容の分類の定義）

---

## カウントしたもの

- ・初回面談の際に相談者から表出があったもの
- ・初回面談の内容から支援者が必要だと判断したもの

## 分類項目

「両立」: 就業中で両立に関する相談

「復職」: 休職の状態からの復帰に関する相談

「休職」: 休職の内容・取得・延長等に関する相談

「退職」: 退職時の手続き・権利や不利益に関する相談

「新規」: 失業の状態から新規就職に関する相談

「その他」: 上記に分類できないもの

# 結果(調査対象の属性)

	相談者数	難病	がん	精神	その他	計
20歳未満	2人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20～40歳	59人	72.9%	10.2%	3.4%	13.6%	100.0%
40～60歳	177人	63.3%	23.7%	3.4%	9.6%	100.0%
60歳以上	27人	40.7%	44.4%	0.0%	14.8%	100.0%
不明	13人	53.8%	23.1%	7.7%	15.4%	100.0%
男性	176人	61.4%	25.6%	2.3%	10.8%	100.0%
女性	99人	65.7%	17.2%	5.1%	12.1%	100.0%
不明	3人	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
計	278人	62.9%	22.7%	3.2%	11.2%	100.0%

# 結果（相談内容の結果）

	相談者数	両立	復職	休職	退職	新規	その他	計
20歳未満	2人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
20～40歳	59人	11.3%	29.6%	23.9%	14.1%	18.3%	2.8%	100.0%
40～60歳	177人	9.5%	21.9%	20.4%	15.9%	26.4%	6.0%	100.0%
60歳以上	27人	6.5%	22.6%	22.6%	29.0%	16.1%	3.2%	100.0%
不明	13人	0.0%	45.5%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%	100.0%
男性	176人	10.5%	25.8%	23.9%	19.1%	17.2%	3.3%	100.0%
女性	99人	6.7%	21.0%	16.2%	11.4%	36.2%	8.6%	100.0%
不明	3人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
難病	175人	9.4%	22.6%	19.3%	16.0%	28.3%	4.2%	100.0%
難病以外	103人	8.7%	28.2%	25.2%	17.5%	13.6%	6.8%	100.0%
計	278人	9.2%	24.4%	21.3%	16.5%	23.5%	5.1%	100.0%

## 結果（データ集計から）

相談内容別にみると、全体では復職が24.4%で最も多く、次いで新規が23.5%、休職が21.3%と続いている。

- 従来の働き方では就労継続が困難に
- 新しい働き方を模索する必要性
- 症状増悪等を契機に働き方の再調整が必要

# 当センターにおける取り組み

2014年 就労支援の取り組み開始

研修会の開催・見学・会議の実施

2017年 社会保険労務士の配置

⇒ 早期介入による離職防止

- 労働法に関する専門的知識
- 法律職の早期介入による不利益の回避
- 患者の働く権利を守る情報提供

# 就労支援シンポジウムとフローチャート

## <支援者からの声>

難病患者の就労支援に関わる関係機関が多いが、  
どこに相談したら良いか？どこに繋げてよいのか？わからない。

⇒ 各関係機関の理解 & 対応フローチャートが必要か？

2018年 難病患者就労支援シンポジウム開催  
⇒ 病院・保健所 + 就労支援機関  
それぞれの役割についての協議

2019年 難病患者就労支援ワークショップ開催  
テーマ「各関係機関を理解する&フローチャートの作成」



# 就労支援シンポジウムとフローチャート

## 就労支援フローチャート

＝相談者から表出されたニーズに対して、どの課題をどの機関が担うのか、対応の流れを整理したもの

- 各機関の専門性や特徴、担うべき領域について整理
- 相談の初期対応のフローを示すことができた
- 相談者が抱える複合的な問題については対応できない。  
⇒ 使えるシーンは限定される



# ワークショップ以後の研修会

2020年 「地域の難病患者の治療と仕事の両立支援」  
就労支援ネットワークONE 中金 竜次 氏

2021年 オンライン検討会 テーマ「わたしたちの就労支援」  
「東京都難病相談・支援センターの就労支援」  
東京都難病相談・支援センター 野島ちひろ 氏

2022年 オンライン「産業医と就労支援」  
産業医科大学病院 両立支援科 永田晶子医師

病院が担う就労支援

病院＝疾患に関する情報が集約されている場所  
→ 院内の資源を活用して疾患を踏まえた職業評価

## 考察とまとめ

中村 俊介他

「医療機関における両立支援の取り組みに関する研究」

- 患者が早期に必要な支援にたどり着くまでの障壁
- 診断書・意見書の作成に関する課題

などが報告されている。

社会保険労務士の配置  
フローチャートの作成



早期の情報提供による離職防止  
関係機関へ繋げる道筋の整理

### 離職防止のための早期介入の対応

## 考察とまとめ

相談ニーズ = 復職や新規就労

⇒ 難病への罹患や増悪で働き方の再調整に直面

再調整には疾患理解が必要

⇒ 自分に必要な合理的配慮の整理・認識

疾患特性を踏まえた職業アセスメントが重要

職業アセスメントの精度向上 ➡ 職業準備性を整える

➡ アセスメントを医療者・事業者間で共有・連携

# 参考文献

---

- 1) 障害者職業総合センター「企業と地域関係機関・職種の連携による難病患者の就職・職場定着支援の実態と課題」調査研究報告書No.155,(2021)
- 2) 障害者職業総合センター「地域関係機関・職種による障害者の就職と職場定着の支援における役割と連携のあり方に関する研究」調査研究報告書No.147,(2019)
- 3) 中村 俊介他「医療機関における両立支援の取り組みに関する研究」厚生労働省総合研究報告書,(2019)
- 4) 松本由美『東京都多摩難病相談・支援室における難病患者の就労支援について』,「難病と在宅ケア」,(2020),vol26,p.28-32
- 5) 園部律子他『茨城難病相談支援センターにおける就労相談事業の取り組みと今後の課題』,「難病と在宅ケア」,(2021),vol27,p.5-8
- 6) 厚生労働省「がん患者・経験者の仕事と治療の両立支援の更なる推進について」,(2019)
- 7) 高橋都ら「働くがん患者の職場復帰支援に関する研究」,(2016)